

蜜蝋で環境配慮のラップ作り

年 組 名前

環境に配慮した「みつろうラップ」を作る ^{もよお} 催しが、伊那市西箕輪の産学官 ^{いなしにしみのわ} 連携拠点「inadani sees（いなだにしーず）」で開かれました。だれが、どんな願いで ^{きかく} 企画したのか、記事を読んでみましょう。

① 催しは、だれが ^{しゅさい} 主宰する、何という ^{だんたい} 団体が企画しましたか。

主宰—

団体名—

② ミツロウラップの特長は何ですか。（ ）に入る言葉を書きましょう。

食器などを ^{おお} 覆う食品 ^{ほぞん} 保存用のラップとして、（ ）すれば（ ）も使えるため、（ ）の ^{さくげん} 削減になる。

③ 作り方を ^{かいせつ} 解説した ^{ひらがゆうこ} 平賀裕子さんは、何と言って活用を ^よ 呼びかけましたか。

④ 参加者は、具体的にどうやってみつろうラップを作りましたか。

⑤ あなたの住む ^{ちいき} 地域で、環境問題に取り組んでいる活動はありますか。調べてみましょう。

蜜蠟で環境配慮のラップ作り 伊那で催し 布にコーティング

布を蜜蠟みつろうでコーティングした「ミツロウラップ」を作る



ミツロウラップを作る参加者ら

催しが26日、伊那市西箕輪の産学官連携拠点「inadani sees（いなだにしーず）」で開かれた。市内外の8人が蜜蠟から漂う甘い香りを楽しみながら、さまざまな柄の布をラップに仕上げた。楽しんだ。

催しは、二酸化炭素(CO₂)削減を任務にしている市地域おこし協力隊員の堤耀子さん

(31)主宰の「暮らしの循環実験室」が企画。食器などを覆う食品保存用のラップとして、水洗いすれば何度も使えるため、プラスチックごみの削減に向けた選択肢にしてほしいと開いた。

この日は、市内でオーガニック生活雑貨店「ワイルドツリー」を営む平賀裕子さん(60)が作り方を解説。実際に削減できるごみの量はわずかでも、「気に入ったものを使うことで自分をご機嫌になるし、意識が変わっていくことが大事」と活用を呼びかけた。

参加者は蜜蠟の粒をアイロンで溶かし、布の表面に薄くのばして丸形や四角形のラップにした。信州大農学部(南箕輪村)3年の清水希歩きほさん(20)は「思ったよりも簡単にできてびっくり。たくさん使いたい」と喜んでいった。

ちいき
(2024年5月27日・地域面(中南信))

年 組 名前

環境に配慮した「みつろうラップ」を作る催しが、伊那市西箕輪の産学官連携拠点「inadani sees（いなだにしーず）」で開かれました。だれが、どんな願いで企画したのか、記事を読んでみましょう。

①催しは、だれが主宰する、何という団体が企画しましたか。

主宰— 市地域おこし協力隊員の堤耀子さん

団体名— 暮らしの循環実験室

②みつろうラップの特長は何ですか。（ ）に入る言葉を書きましょう。

食器などを覆う食品保存用のラップとして、（ 水洗い ）すれば（ 何度 ）も使えるため、（ プラスチックごみ ）の削減になる。

③作り方を解説した平賀裕子さんは、何と言って活用を呼びかけましたか。

【答え】 気に入ったものを使うことで自分にご機嫌になるし、意識が変わっていくことが大事

④参加者は、具体的にどうやってみつろうラップを作りましたか。

【答え】 蜜蝋の粒をアイロンで溶かし、布の表面に薄くのばして丸形や四角形のラップにした

⑤あなたの住む地域で、環境問題に取り組んでいる活動はありますか。調べてみましょう。

【答え】 略